

多弁になった分 [心] が浅くなる

第五十一話 平成三十年十二月十日

「心は 體の中にない」と草莽奮戦日記で記した。

「近年の実験心理学とやらでは、感情、気持ちが表情をつくるのでなく、表情が感情をつくる」と武道通信かわら版で記した。

[心] がどこにあるのか。[心] とはなんであるか。いまだ立証されていない。

一神教の神が死んで、心理学や精神医学が割り込んできて、しっちゃんかめっちゃんかになっている。

日ノ本の祖先は [心] とはなんであるとか、立証しようなど考えもしなかった。そのかわり [心] を風のように、雲のように、湧き水のように、満ち引きする海のように捉えてきた。

[心] の語彙が、これほどあるには日本語だけ。

心思ふ 心悲しい 心荒ぶ 心問ふ 心細し 心恋し 心情 心恥かしい
心待つ 心無し 心地行く 心入る.....。

「行く」と「入る」で心持は違う。「行く」は気持がはればれする 「入る」は深く心にとまる。

口に出す前に、まず [心] に留めた。

心愛づ→心の中で愛する。心浅し→心中で恥かしく思う。心染む→心に深く
とまる。心祝い→心の中でよいことが起るように祈る。

顔に出た [心] を読んだ。

心付け顔→人の注意を引くようなそぶり。心化粧→相手によく思われたいと
思う。心落ち→気落ちする。心得顔→いかにもわかったような顔つき。心有り
顔→心に思うことのありそうな顔つき。

[心] で人を値踏みした。

心軽→深慮のない。心嵩→気持の大きい。心利き→気が利いている。心有る→思慮・分別がある。

[心] で自分を戒めた。

心支度→心の用意。心がまえ。心置く→気にかける。心にとめる。心掟→心くぶり。心入れ→気をつける。心得→承知しておく。心誓文→心中に立てた誓いの文句。心の垢→心のけがれ

まだまだある。これの五倍はある。

いまの世の日ノ本人。多弁にならないと潰されるからと、口を開けば開くほど「心浅し」となる。思慮が浅くなる。